

谷口江里也による現代語訳『風姿花伝』 第9回

風姿花伝その二 物學ものまねについて

物學ものまねについてはいろいろあり、どうすれば良いかは筆舌に尽くし難いけれども、しかし、これはこの道にとつて肝要な、非常に大切なことであるので、それぞれのことを、ちゃんとそれらしく学び身に付ける必要がある。

物まねに関しては基本的に、なんの物もまねであっても、その物に、あますことなく似ているということが、その本意であり目的であるけれども、物によつては、あるいは場合によつては、その程度に濃いこ淡うすいがあることを知らなければならぬ。

先ずいっておかなければならないことは、国王や大臣などをはじめ、公家の方々の佇まいや立ち居振る舞い、武家の方々の動きや働きなどは、まねをしてもとうてい及ぶようなものではなく、十分な物まねは難しいけれども、しかし、そういった方々の言葉、話しぶりなどをよく聞き、身のこなしなどもよく勉強しながらやってみて、それを人にも見ってもらって意見をいつてもらったりするとよい。そのほか高官の方々のことや、花鳥風月のありようなど、ともかくにも細かなところまで似るようになければならない。また、お百姓や田舎の人々に関しても、あんまり細かく賤いやしげな所作などで似せようとしてはいけない。しいていうならば、樵せうや草刈りや炭焼きや汐汲しおくみなどの、具体的な動作をともない、かつ風情ふぜいもあることを、こまかく研究して似るようになるとよい。それよりさらに身分が低かったり下品な者について、ことさらに細かく真似て似せようとしたりしてはいけない。そういうことは、高貴な方々にお見せするようなものでもなく、見せたところで、あまりにも賤しいことなどは、見ていて面白くもなるともない。そういう按配を、よくよく心得る必要がある。